

令和4年度中山間ふるさと保全委員会開催結果

1 開催日時

令和5年3月28日（火）14時30分～16時15分

2 場所

ホテル ルビノ京都堀川 2階「ひえいの間」

3 出席委員

星野委員長、中村委員、深町委員、湯浅委員、伊藤委員

4 議題

- (1) 令和4年度活動報告（基金活動、参加型住民づくり事業）
- (2) 令和4年度その他の取組説明・実績報告
- (3) 令和5年度活動計画について
- (4) 基金の保有状況について

5 概要（結果及び主な意見）

(1) 令和4年度活動報告について

＜質疑応答及び意見＞

- ・ それぞれの活動の内容について HP 等で確認することはできるか。
→ 取り組みについて近年の取り組みは HP に載せることができていない。活動を世の中に広く発信していく方法について検討を進めていきたい。
- ・ 過去の取り組みのノウハウは新しく活動を始める団体にどのように情報提供されているか。
→ 継続的に関わっている職員が新しく活動を始める団体にアドバイス等を行っている。
- ・ 丹後地域の松林に関する取り組みについて、高校生だけではなく、小学生や中学生とも連携して参加することができるプログラムも検討するべき。
→ 他課の担当者とも相談し、検討していきたい。
- ・ HP への掲載の際には、キーワード検索等を活用し、他の地域の活動をみることができるようになることも検討するべき。

- ・ 活動の周知に向けて、新聞等に取り上げてもらうための取り組みを行っていただければ教えてほしい。
 - 地域外ファンについては、何件か新聞に取り上げていただいている。また、ふるさと発見隊を活動するときには、各新聞社に投げ込みを行っており、記事に取り上げていただいている。
- ・ 学校との連携について、学校関係者にも情報提供しながら、活動を更に広めていくべきと考える。
 - 学校との連携について、カリキュラムが早い段階で決まっている学校もあることから、早くから活動への呼びかけを行い、活動に参加していただく体制づくりに努めていきたいと考えている。
- ・ 活動の際には水産業や林業の団体との連携についても積極的に進めてほしい。
 - 農業だけでなく、水産業や林業との関わりについても検討していきたい。
- ・ 学校との連携に加えて、地域産品も関わっていただければマスコミとしても記事に取り上げやすいと考える。
- ・ 新聞やラジオなどで中山間や土地改良についての広報をしていくことも活動を広めていく点に関して重要だと考える。

(2) 令和4年度 その他の取組・実績報告

<質疑応答：「むらの減築ワークショップ」について>

- ・ 成果が出るまでにどれくらいの時間がかかったのか教えてほしい。
 - 地域づくりをこれまで頑張ってきている地域に話を持ちかけて3年ほど必要。また、その間に4、5人の行政職員が関わる必要がある。
- ・ 京都府の職員だけでなく、大学生や普及員さんも活動に取り組むべきと考える。
 - HPにこれまでの活動を掲載しており、職員だけでなく、様々な方が興味を持っていただける体制は作っている。活動が広がっていくよう今後も継続してPRを行っていきたい。
- ・ 地域が事業を活用するためにも、市町村長にも事業について理解していただくような機会を作って進めていただきたい。

(3) 基金の保有状況について

<質疑応答>

- ・ 運用益で不足する事業費は基金元本を取り崩して捻出するとのことであるが、基金の元本は今後も減らしていくということか。
→ すべての事業費を運用益でまかなえておらず、基金の元本は年々減っている。

【まとめ】

- ・ HP にはこれまでの活動状況を共有できる仕組みを作っていたきたい。
- ・ 基金の運用について、無理のない範囲で実行していただければと思う。
- ・ 地域外ファン事業において移住者が自主的に活動し新規移住者を呼び込む事例が見られ、このような事例も継続的に支援していただきたい。
- ・ 中山間では農業以外にも林業や水産業もあり、それらの業種への連携も考えていただきたい。
- ・ 広く知っていただくため、マスコミへ取り上げられることも考慮しながら活動していただきたい。
- ・ むらの減築について、新たな可能性を感じるため、市町村も巻き込みながら継続的に取り組んでいただきたい。